

Y5-02

釧路CDEキャラバン！北北東に進路を取れ！～地域糖尿病デーの取り組み～

釧路赤十字病院 内科¹⁾、
看護部²⁾、薬剤部³⁾、栄養課⁴⁾、検査部⁵⁾、
リハビリテーション科⁶⁾
古川 真¹⁾、稲荷 弥生²⁾、近江 令司³⁾、
赤澤 知美⁴⁾、高淵 良子⁵⁾、鈴木 晃太⁶⁾

【背景】道東地域においても糖尿病患者の増加は顕著であり、その療養サポートは非常に重要な問題となってきた。しかしながら糖尿病は自覚症状がない病気であり、病気の質や検査の必要性・生活習慣の見直しなど、その啓発が重要になってくる。そこで今回我々は地域の医療機関の糖尿病療養指導士(CDE)と協力し、市民参加型の『糖尿病デー』を企画・運営した。

【内容】『釧路糖尿病デー』は11月14日の『世界糖尿病デー』に合わせて行った。これまで2回実施し、約200名の市民の参加があった。内容は、療養サポートを体験してもらう『身長・体重測定』『血糖測定コーナー』『栄養相談コーナー』『運動療法コーナー』『フットケア体験』『よろづ相談コーナー』『ぴったりカロリー昼食会』を行った。2回の『釧路糖尿病デー』の開催を受け、地域の方々より釧路市には遠方で来れない、釧路市以外の地域でも『糖尿病デー』を開催して欲しいという声を受け、我々は春に地方版『糖尿病デー』を釧路の北北東に位置する漁師町浜中町で開催した。内容は、講演会を最小限とし、療養サポートを参加者全員に体験してもらうことを主眼とした。

【考察】症状のあまりでない慢性疾患である糖尿病の療養サポートは、如何に自分自身の健康問題につき気付けてもらえるかが重要な課題となる。病院で実践している療養サポートを院外に持ち出し、市民に体験して貰い好評を得た。今後も継続して、市民と共に糖尿病療養サポートを考えていけるような活動を行っていきたい。

Y5-03

禁煙外来265例の検討

福井赤十字病院 呼吸器科
塩崎 晃平¹⁾、赤井 雅也²⁾、渡邊 創³⁾、
多田 利彦⁴⁾、加藤 智浩⁵⁾、菅野貴世史⁶⁾、
長谷 光雄⁷⁾

【目的】禁煙外来受診患者265例の診療経過を分析することにより、今後の禁煙外来における禁煙成功率の向上をめざす。

【対象】これまでに勤務し、禁煙外来診療を行った2施設の禁煙外来受診患者265例(森田病院155例;非予約制、福井赤十字病院110例;完全予約制)

【方法】上記2施設で「禁煙治療のための標準手順書;第3版、第4版」に基づき、禁煙外来診療を行った。禁煙補助薬として、ニコチネルTTS、バレニクリンのいずれかを使用した。問診項目、使用薬剤、外来診療システムなどの違いによる禁煙成功率を算出して、比較、分析、評価、検討を行った。

【結果】森田病院での禁煙成功率は48.4%(男性48.6%、女性47.7%、ニコチネルTTS43.9%、バレニクリン61.0%)であった。福井赤十字病院での禁煙成功率は58.2%(男性61.0%、女性50.0%、ニコチネルTTS52.0%、バレニクリン60.0%)であった。ニコチネルTTSでは皮膚症状の、バレニクリンでは消化器症状の副作用を多く認めた。

【考察】森田病院では、非予約制で、担当医の外来時間内であれば、患者本人の都合で自由に受診できるようにしていた。一方、福井赤十字病院では、完全予約制となっている。非予約制の方が、3ヶ月間の外来受診が継続しやすいと考えていたが、禁煙成功率は、福井赤十字病院の方が高かった。完全予約制の場合、予約申し込み日から禁煙外来初診日までに時間ができることで、禁煙関心期から禁煙準備期へ患者心理が移行する可能性が示唆された。また、福井赤十字病院では、補助薬にバレニクリンを使用した症例数が多かった。